



# 広報 南 国

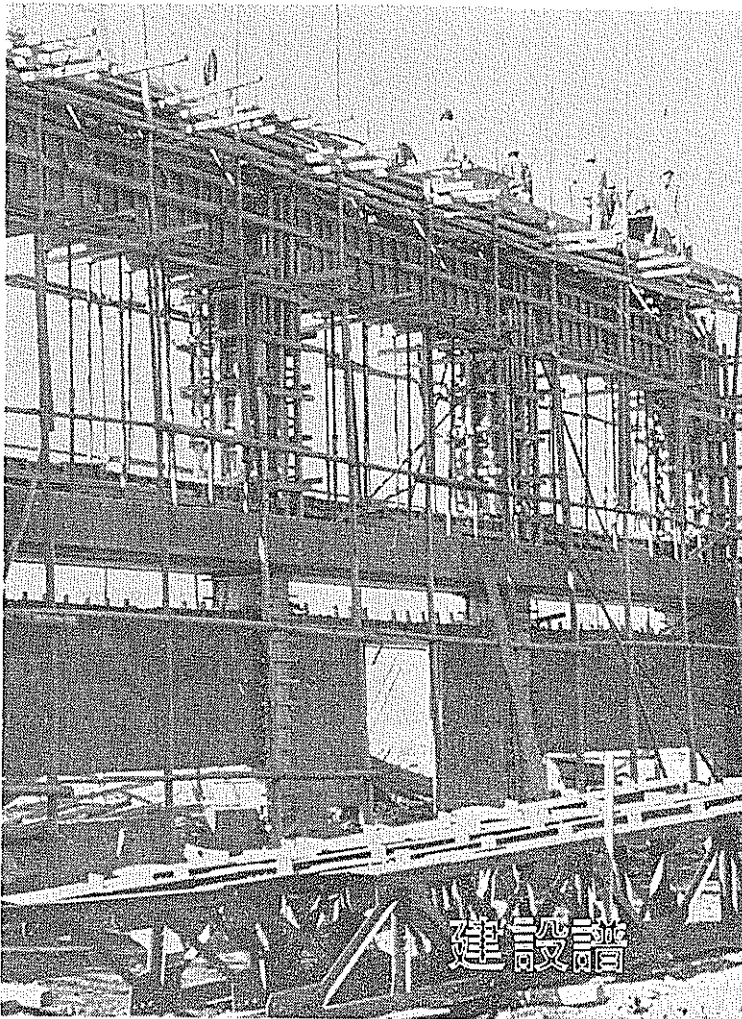
第 8 4 号

昭和42年 2月 1日

編集発行  
南 国 市 広 報 委 員 会

事 務 所  
高 知 県 南 国 市 役 所 内  
(電 2111)

印 刷 川 比 印 刷 株 式 会 社  
(電 3151・有線155-11)



## 市民体育館

す  
す  
み  
ゆ  
く

体育を愛好する人たちはもとより、一般の人たちにも待ち望まれていました市民体育館は、十一月の起工式以来、五月完成を目指して着々と建設が進められていますが、いまその外観が見られるようになりました。

この体育館は公民館活動にも利用されることにもなっており、完成の日が待たれています。

酒なくて、なんのおれのさくらかな などと酒を謳歌した詩歌の類は多い、ところがその酒によって身をほろぼしたのも数多い。▼酒はひとりですづかに飲むものと牧水は歌い、古来より百葉の長ともいわれている。適度にたしなむことはよいものだ、胃や肝臓をおかし、イカンゾウにしたり、アルコール中毒症にしては、一生うだつがあがったものではない。百誓あつて一利なした。▼ある人がある主婦の話し合いの座での話しをしたが、酒の功罪論から、主人の酒をふうずるためのあの手、この手の方法論に花を咲かしたなかで朝のみそ汁の中へ酒を入れ、しかも毎朝その量を少しづつ多くしてゆこうらに、主人の晩しゃくの飲みがしだいに減り、さしもの大酒飲みも口にしないようになったという実践論まで飛び出したが、要する夫には適量に飲ましてあげようということになったとか。お困りの奥さまみそ汁戦法をためしてみても、しかし保証の限りではない。











みんなの広場

# 都市計画について

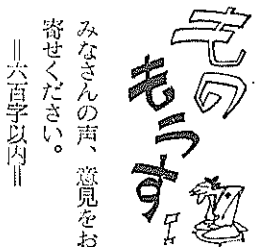
先般ある座談会の席でたまたま

わが南園市の都市計画が話題にのぼったが、都市計画については、合併の当初いち早く広報紙上にも取上げて、そのことの速かな実現を希望して置いたが、その席上での当局者の話によると、合併後七年、三代目の市長になって

漸く計画案が具体化への一歩を踏みだそうとしているように、遅滞きながら結構なことである。

その座談会での個々の意見を聞いていて、私は大方の意見と自分の考えていることとすこしちがうようなので、田園都市と銘打つわが南園市の都市計画とは果たして何んだらうと、改めて考えさせら

れた。わが郷土に関する限り、都市計画と後免町周辺の市街計画とは別個のものであると私は思う。もちろん立派な庁舎も見事に区画整理された市街も、都計の一環であることにちがいはない。しかしそれは単に文字通り都計の一環に過ぎぬことを忘れて貰っては困る。



市民の福祉増進のために挺身しなければならぬことにあるが、都市計画もまた全市民の福祉増進のために遂行されなければならぬのは論をまたないはずである。

かつて溝淵知事がその抱負を語られた中で、農村都市という言葉

が使われたことがあると記憶するが、それによると、住民の大多数が農民である都市にあっては、工場も商品も娯楽設備も、農民を対象としたものを主体として設置すべきであるという特異な構想であった。

すなわち大小の農機具の会社を誘致し、農業はもちろん、商品も農民の生活に不可欠なものを販売し、娯楽面においてもモンペでダンスができるような施設をすることの意味のことが語られていたがこれこそ田園都市と自称するわが南園市に当はまる言葉ではないだろうか。そんなことは理想論だと決めてかかればそれまでだが、卓見である。

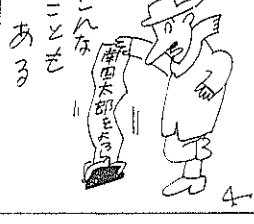
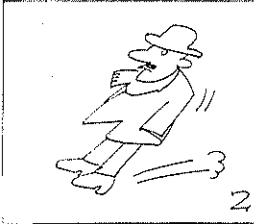
南園市は地形的にも歴史的にもいくら背伸びをしてもお隣の高知市に追つくことは至難と思われるが、ただ地域の特質を十二分に生かした都計を立案することによって、将来の大発展を期することができ、それが全市民の福祉増進に貨献する所以であると私は考える。

要は高層建築物の集積によって造りあげられた過去の都市という名の概念から離れて、所謂慣行的意識を脱却した都市計画を遂行しなければ、わが南園市の発展はあり得ないと私は断言する。

北の黒龍の山奥も、黒潮洗う南の海岸地帯もすべて南園市であることにちがいはないから、そこに

たばこは市内で

買いましょう



## 無料 法律人権・行政相談

毎月20日10時から15時 中町公民館

人権擁護委員 田村 入交 照

上野田 高橋 長 敬 行政相談員

瓶岩 島本 直治 下末松 山崎 一喜

前浜 浜田 称芳 里改田 竹内 英喜

ますます好評

2分間写真

山崎写真館

ごめん中町

TEL 2354

住宅公庫・農山漁村住宅

新築、増築、改造修繕、申請、測量

木造、ブロック、鉄骨鉄筋

中村建築士事務所 TEL南園2049

も必ず都計の一線を引くことを忘れないようにと、私は敢てかく希望します。(十市梨夫)